

子どもがかかりやすい感染症一覧

医師の判断と意見書が必要な病気へ医師が記入する意見書が必要	病名	潜伏期間	感染経路	主な症状と経過	予防接種	登園の目安	かかりやすい年齢	免疫	留意事項	うつりやすい時期
	麻疹(はしか)	8~12日	空気感染 飛沫感染 接触感染	高熱、咳、鼻水、くしゃみ、目やにではじまり、いったん熱が下がるころ口の中にコブリック斑が出現。再び熱が上ると同時に発疹が耳後部から広がる。	MR混合ワクチン (生ワクチン) 1期:12ヶ月~24ヶ月の間 2期:就学前の1年間	解熱した後3日を経過するまで 発疹がなくなるまで	乳幼児特に1才 幼児低学童	終生 終生	感染力が強い。 肺炎、脳炎、中耳炎に注意する。 髄膜炎に注意する。妊娠初期は要注意。	発熱出現1~2日前から発疹出現後の4日間 発疹出現7日前から出現後7日間まで
	風疹(三日ばしか)	2~3週間	飛沫感染 接触感染	初め軽い発熱。同時に細かい発疹が全身に出る。首、後頭部、耳後リンパ腺が腫れる。3~4日で発疹が消える。不顕性感染(感染しても無症状)が多い。	生ワクチン 1歳以上3歳未満	全ての発疹がかさぶたになるまで	乳幼児低学童4~5才	終生	感染力が極めて高い。免疫力の低下している児では重症化する。妊娠婦は要注意。肌は清潔に(シャワー可)爪は短く切っておく。	発疹の出る1~2日前からかさぶたになるまで
	水痘(水ぼうそう)	2週間前後	空気感染 飛沫感染 接触感染	発熱(出ない場合もある。)周りに赤みのある丘疹が、3~4日で次々に水疱になり2~3日でかさぶたになる。かゆみが強い。	生ワクチン 1歳以上 任意接種	耳下腺、頸下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで	幼児	終生	髄膜炎、睾丸炎、卵巢炎、難聴を起こすことがある。	腫れる数日前から腫れがひくまで
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	2~3週間	飛沫感染 接触感染	発熱(出ない場合もある。)耳の下、頸の下が腫れる。口をあけたり食べたりすると痛む。乳児では感染していても症状が現れないこともある。不顕性感染(感染しても無症状)が多い。	四種混合DPT-IPV (不活化ワクチン) 6ヶ月~7歳6ヶ月	特有の咳がなくなるまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで	0~6才	終生	肺炎、髄膜炎、中耳炎に注意する。 特に乳児は重症になりやすい。	風邪症状の時から投薬治療開始後7日
	百日咳	7~10日	飛沫感染 接触感染	1~2週間にわたり、咳、鼻水、くしゃみ、続いて特有の咳(コンコン、ヒューヒュー)が続く。	無	解熱後48時間経過するまで、主要症状消失後2日を経過するまで	乳幼児低学童	再感染あり	感染力が強い。夏季に流行が見られる。	のどから2週間、糞便から数週間ウイルスは排出される。
	咽頭結膜熱(プール熱)	4~7日	飛沫感染 接触感染 経口感染	高熱、咽頭痛、目やに、目の充血(結膜炎)。	無	主要症状が消失するまで 医師が伝染の恐れがないと認めるまで	1~5才	再感染あり	非常に感染力が強い。角膜炎による視力低下に注意。手洗いの励行、タオルを個別にする。	発症後2週間
	流行性角結膜炎(はやり目)	2~14日	目やにによる 接触感染 飛沫感染	目がゴロゴロして痛痒い。目の充血、目やに、涙目、まぶたの腫れと痛み。	無	眼科医師が伝染の恐れないと認めるまで			目やにや分泌物には触れない	のどから1~2週間、糞便からは数週間から数ヶ月ウイルスが排出される。
	急性出血性結膜炎	1日前後	飛沫感染 接触感染 経口感染	急性結膜炎で結膜出血が特徴	無	症状がおさまり、投薬治療が終了し、2回の検便検査によって菌陰性が確認されるまで	0~6才		衛生的な食材の取り扱いと十分な加熱調理。オムツの取り扱いに注意。	便中に菌が排泄されている期間
	腸管出血性大腸菌感染症	3~4日	経口感染 接触感染	激しい腹痛、下痢、血便、発熱は軽度	無	抗菌薬内服後24~48時間を経過するまで	0~6才 低学童	再感染あり	回復期に急性腎炎、リウマチ熱に注意。	抗菌薬内服後24時間経過するまで
医師の判断が必要な病気へ保護者が記入する登園届が必要	溶連菌感染症	2~5日	飛沫感染 接触感染	突然の高熱、のどの痛み、しばしば嘔吐。発疹、イチゴ舌。熱が下がると皮膚が膜状に剥けてくる。	無	発熱がなく、普段の食事がとれるまで	乳幼児1~2才	再感染あり	オムツの取り扱いに注意 爪が剥離する症状がみられることがある。	唾液は1週間未満、糞便からは数週間ウイルスが排泄される。
	手足口病	3~6日	飛沫感染 接触感染 経口感染	手、足、口腔内に水疱ができる。発熱は軽度。口内炎がひどく食事がとれないことがある。	無	全身状態がよくなるまで	年長児 低学童 6~7才	終生	発疹が治っても直射日光に当たったり入浴すると発疹が再発することがある。 妊婦は要注意。	風邪症状の時から発疹が出現するまで
	伝染性紅斑(リンゴ病)	4~14日	飛沫感染	両頬に蝶のような形の紅斑。頬に発疹の現れる7日~10日前に微熱・風邪様の症状が現れることが多い(感染力の強い時期)。発疹が現れた時はほとんど感染力なし。	無	皮疹が乾燥しているか、湿潤部位が覆える程度になるまで	乳幼児	再感染あり	かきこわさないように爪を短く切つておく。ぐじゅぐじゅしている部分はガーゼで覆い接触しないようにする。	効果的治療開始後24時間まで
	伝染性膿瘍(とびひ)	2~10日 (傷の状況などで異なる)	接触感染	虫刺され等を搔きこわして、細菌がつき、水疱、膿瘍となる。かゆみが強い。膿瘍が破れ、新しい皮膚に広がる。	無	解熱後1日以上経過し、全身状態がよくなるまで	0才	再感染あり	発疹が出来れば一安心 発疹が褐色化するまで静養。	感染力は弱いが発熱中は感染力がある。
	突発性発疹	約10日	飛沫感染 接触感染 経口感染	突然、高熱が3~4日続き、熱が下がると同時に全身に発疹が出る。発熱のわりに機嫌が良いことがある。	無	症状が治まり、普段の食事がとれるまで	0~6才	再感染あり	脱水症状に注意。手洗いの励行。 嘔吐物や便の取り扱いに注意。	症状のある間
	感染性胃腸炎	ロタは1~3日 ノロは12~48時間	経口感染 接触感染	嘔吐。下痢(乳幼児は白色調であることが多い) 発熱	ロタウイルスはあり 経口生ワクチン 任意接種	発熱がなく、普段の食事がとれるまで	乳幼児特に1~4才	再感染あり	咳、くしゃみ、便からも感染する。 オムツの取り扱いに注意	唾液は1週間未満、糞便からは数週間ウイルスが排泄される。
	ヘルパンギーナ	3~6日	飛沫感染 接触感染 経口感染	発熱、喉の痛み、口の中に赤い発疹 のどの痛みなどで食事、飲水ができないことがある。	無	呼吸器症状が消失し全身状態がよくなるまで	乳幼児	再感染あり	2歳以上の園児や大人がかかるとRSウイルスと気づかず感染を拡大させてしまうことがあるので要注意。	3~8日(乳児では3~4週間)
	RSウイルス感染症	4~6日	飛沫感染 接触感染	発熱、咳、鼻水などで発症し、多くは1週間程度で回復します。保育園児は1歳までにほとんどが初感染する。特に0歳児では入院が必要なほど重症化することがある。生涯に何度もかかることがある。	無	症状が改善し、全身状態がよくなるまで	幼児 低学童	再感染あり	肺炎は学童期、青年期に多いが、乳幼児では典型的な経過をとらないことが多い。	症状発現から4~6週間
	マイコプラズマ肺炎	2~3週間	飛沫感染	かぜ症状(高熱3~4日・咳など)。咳が頑固に続く。発熱しない時もある。発疹、中耳炎を伴うこともある。	無	発症した後5日間を経過し、かつ、解熱した後、幼児は3日を経過するまで	0~6才	再感染あり	肺炎、気管支炎に注意。ウイルスの検出は発熱後約半日以上経過しないと正しく検査できないことが多い。	症状がある期間
	インフルエンザ	1~4日	飛沫感染 接触感染	突然の高熱が3~4日続く。全身症状(全身倦怠感、関節痛、筋肉痛)を伴う。のどの痛み、鼻水、咳。	不活性ワクチン 任意接種	発症した後5日間を経過し、かつ、解熱した後、幼児は3日を経過するまで	0~6才	再感染あり	発症2日前から発症後7~10日間はウイルスを排出している。大多数は軽症。小児の場合、熱性けいれんやクレープなどの合併症もある。	発症後5日間
不必要類	コロナ	約5日	飛沫感染 接触感染 エアロゾル感染	発熱、呼吸器症状、頭痛、倦怠感、消化器症状、鼻汁、味覚異常、臭覚異常。無症状のまま経過することもある。	mRNAワクチン 任意接種	発症した後5日間を経過し、かつ、症状軽快後1日を経過するまで		再感染あり	2023/5/29更新	